

# セスキプラスの使い方



セスキプラスは洗濯に特化したセスキ炭酸ソーダ製品です

シンプルなアルカリの力に、汚れをスピーディに分解する4種の酵素パワーをプラス  
従来のアルカリ洗濯で必要だった長時間の浸け置きが不要になり、洗浄力もアップしました

セスキ炭酸ソーダは生分解不要。タンパク質である酵素も水中のバクテリアが速やかに分解します

そのうえ使用量は水30Lに小さじ2杯という少なさ

お財布にも環境にも大きな負荷をかけない、新しいタイプの洗剤です



## 基本の使い方

### ● セスキプラスで洗えるもの

水で洗える素材でできた、以下のようなアイテム

- ・綿・麻の衣類や小物類  
1日着ただけのシャツやパジャマ、湯上がりタオルやハンカチなど軽い汚れ物の洗濯に

- ・ポリエステルなどの合成繊維製品  
合成繊維は浸け置きしそうると再汚染して黒ずむことがあるため注意する  
再汚染とは、いったん繊維から離れて水中に出た汚れが再び繊維に戻ってしまうこと

- ・ワイシャツ、下着や靴下、ニット製品など
- ・ウール・絹製品  
事前に、ウォッシャブルであることを取り扱い表示で確認すること  
風合いを守るため長時間の浸け置きはせず、手早く洗い上げる
- ・カーテンやインテリアファブリック、寝具など  
皮脂や手垢などで特に汚れているところは事前に石鹼で部分洗いしておくとよい



### ● 基本の洗濯(洗濯機使用)

【使用量】縦型全自動・二槽式/水30Lに対し小さじ1.5~2(7.5~10g)程度 ドラム式/洗濯物4kgに対し小さじ1(5g)程度

1. 靴下やエリソデのしつこい汚れ、激しい油汚れや化粧品汚れなどは事前に石鹼で部分洗いしておく
2. 洗濯物を洗濯槽に入れ、水量を決める
3. 水量が決まつたら適量のセスキプラスを入れる
4. 洗いスタート。洗い時間は約15分  
※セスキプラスを溶かすための攪拌時間～浸け置き時間を含め、トータルで15分間あればよい  
※数時間程度浸け置きができるときは攪拌時間を2分程度に減らしてよい
5. 浸け置き後、1分程度攪拌してから1回すすぐ  
※すすぎ1回では不安な場合はすすぎ回数を増やしてもよい
6. 脱水して干す

30L =  
小さじ2



### <メモ>

- ・セスキプラスは酵素が汚れを分解します。一般洗剤のように洗濯機の攪拌力に依存しないので、洗濯物の量は洗濯機の表示どおりの量で洗えます(一般的な洗剤の場合、洗濯物の量は洗濯機表示の7~8割が適量とされている)
- ・洗濯機搭載の「浸け置きコース」や、夜に浸け置き朝に洗い上がるタイマー洗濯などの使用も可  
長時間浸け置きできるときは使用量を1/3~半分程度に減らしてもよい(例:水30Lに小さじ1)
- ・本来ならセスキプラス向きの洗濯物であっても、繊維の中に大量の汚れを抱え込んでいる状態だとうまく洗えないことがある  
そのような場合は一度石鹼でしっかり洗い、溜まった汚れを一掃するとよい
- ・通常の洗濯では落ちないシミ汚れは過炭酸ナトリウム(酸素系漂白剤)で漂白するほうがよい

★より詳しい情報は(セスキプラス特集)で解説中!→



# アイテム別の洗い方

## ● デリケート衣類 (ランジェリー、薄い生地の衣類、繊細な飾りが付いた衣類など)

◇ 手洗い【使用量:水10Lにつき小さじ1/2(約2.5g)】

1. 適切な水温や、水洗いできることなどを取り扱い絵表示で確かめる
2. 部分汚れが目立つときは薄めた液体石鹼をつけて軽くたたき洗いしておく
3. 十分な量の水を溜めてセスキプラスを溶かし、生地に負担をかけないよう軽く押し洗い・振り洗いする
4. 洗濯機でしわにならない程度に軽く脱水すしたっぷりの水でさっと1回すすぐ
5. 必要なら軽く脱水し、形を整えて干す

◇ 洗濯機洗い

【使用量】縦型全自動・二槽式／水30Lに対し大さじ1/2(7~8g)程度 ドラム式／水10Lに対し小さじ1/2(2.5g)程度

1. 取り扱い絵表示を確認し、部分汚れがあれば下洗いをしておく
2. 目の細かい洗濯ネットに入れ、洗濯機の「ドライコース」「ソフトコース」などで洗う
3. すぎは1回でよい ※1回で不安なときは2回すすいでもよいが、脱水のかけ過ぎに注意
4. 形を整えて陰干しする

## ● ドライマーク衣類 (ニット、カーディガン、ブラウス、ジャンパー、学生服など)

ウール製品を洗うときは、洗い・すすぎ共に水温30°C(ぬるま湯程度)を保つと風合いが損なわれにくくなる

◇ 手洗い【使用量:水10Lに対し小さじ1/2(約2.5g)】

1. 適切な水温や、水洗いできることなどを取り扱い絵表示で確かめる
2. 部分汚れが目立つときは薄めた液体石鹼をつけて軽くたたき洗いしておく
3. 衣類の大きさに合った洗濯桶や洗面器などを用意する
4. 十分な量の水を溜めてセスキプラスを溶かし、生地に負担をかけないよう軽く押し洗い・振り洗いする
5. 洗濯機でしわにならない程度に軽く脱水すしたっぷりの水でさとすすぐ
6. 必要なら軽く脱水し、形を整えて陰干しする

◇ 洗濯機洗い

【使用量】縦型全自動・二槽式／水30Lに対し大さじ1/2(7~8g)程度 ドラム式／水10Lに対し小さじ1/2(2.5g)程度

1. 取り扱い絵表示を確認し、部分汚れがあれば下洗いをしておく
2. 目の細かい洗濯ネットに入れ、洗濯機の「ドライコース」「ソフトコース」などで洗う
3. すぎは1回でよい ※1回で不安なときは2回すすいでもよいが、脱水のかけ過ぎに注意
4. 形を整えて陰干しする

## ● 布ナプキンの浸け置き

【使用量】水10Lに対し小さじ1/2(約2.5g) ※汚れの程度や布ナプキンの状態等によって使用量を加減する

使用した布ナプキンを洗うまでのあいだ、セスキプラスを溶かした水に浸けておく

セスキ炭酸ソーダのアルカリ性と酵素の働きで汚れが分解され、あの洗濯が楽になる

## ● 毛布などの大物(洗濯機洗い)

【使用量】縦型全自動・二槽式／水60Lに対し大さじ1(15g)程度 ドラム式／4kgに対し小さじ1(5g)程度

1. 毛布についてのホコリや髪の毛などを払い落とす。物干し竿などにかけると作業しやすい
2. えり元など汚れが目立つ部分は、石鹼をつけて軽くたたき洗い。石鹼を沢山使ったときは軽く洗い流しておく
3. 毛布をひだ折り(屏風だたみ)にして大物用の洗濯ネットに入れ、洗濯機へ入れる
4. 「大物洗いコース」「毛布コース」などで洗う。ウール毛布の場合は、水温30°C(ぬるま湯程度)を保つこと
5. 干すときは、物干し竿を2本用意してM字干しにすると早く乾く  
直射日光による色あせが心配なときは陰干しにするとよい